

西日本豪雨で学んだ事

岩沼北中学校 一年二組

佐伯 理帆

私は、幼稚園の年中から小学六年生まで広島県呉市に住んでいました。そこは瀬戸内海と山と川が近くにあり、とても自然豊かな場所でした。

しかし、私がまだ小学一年生の平成三十年七月に西日本豪雨がありました。その時はとても雨が降り学校も休校になりました。長い間、雨が降りて警報も鳴っていたため、すごく怖かったです。このことを覚えていきます。

雨がやんだ後、家では断水になり、キッチンやお風呂、トイレなどの水がすべて止まりました。近隣の市民センターに給水車が止まっていて水を給水していました。みんな水を入れる入れ物を持って並んでいました。すごい列で、お母さんと何時間も並びました。暑くとても疲れしました。小学校でもプールの水をためて水を給水していました。小学校もたくさんさんの人が並んでいました。家

にもどった。そのもらった水を使って手を洗ったりなど色々なことに使いました。

呉市のあちこちでは、土砂くずれがおきて道路が通れなくなったり電車も止まったりした。だから、遠い所には行けなくなりました。だからみんな近くのスーパーやコンビニなどのお店で生活に必要なものを買いました。ただ、このお店に行っても商品がなくなりました。この生活に困りました。商品を入荷するときには道路などを使うので、道路が通れないことは

本当に大変なことなんだなと思いました。

断水の原因も土砂くずれでした。断水のせいでお風呂にも入れませんでした。夏の暑いときに、一週間以上断水が続いても辛かったです。学校も長い間ずっと休校になって、そのまま夏休みになりました。でも断水が終わり水道から水が出た時はとてもうれしかったです。ただ、この災害の影響で秋に行く予定だった動物園への遠足が中止になってしまいました。学校で初めてバス

に乗って遠足に行く予定だった。そのため中止と決
 まった時はとても悲しかった。たごす。

当時、私は小さくてお水が出なくて大変だ
 ったという記憶ぐらいしかなかった。たごすが

、西日本豪雨は自分が思っているよりもずつ
 と大きな災害でした。死者は二百三十七名、

行方不明者八名、重軽傷者四百三十二名とな
 った。おいらとても多くの人が被害にあいまし

た。そのことを知ったとても悲しくなりまし
 た。もう二度とおきてほしくないと思いまし

た。

しかし、東日本大震災や能登半島地震のよ
 うに日本では地震など色々な災害がおきやす
 い国なので、災害に備える対策が必要になり
 ます。

例えば、自分でできることは防災バツグを
 用意してその中に防災グッズ（水や食料、衛
 生用品、ラジオ、懐中電灯など）を入れてす
 ぐ持ち運べるようにしておいたり、家族でハ
 ガードマップを見て家から近い避難所を確認

しておくといいと思います。備蓄水は一日一
しくらいなのかなと思います。たが飲用や調理
用、トイレや洗い物にも使ったりします。だ
いたい一日一人当たり三リ必要だと言われて
います。もし家族が四人で三日分用意すると
したら三十六リも必要になります。足りなく
なったら困るので予備でもう少し用意してお
いた方がいいと思います。

私は生活をしていて、じゅぐちから水が出
るのは当たり前だと思っ、ていました。でも、
災害がおきて、当たり前ではないことに気が
つきました。水が出て普通に生活できること
は幸せなことなんだと思います。

災害はいっ起きるかわかりません。自分で
できることはなるべく自分で備え、対策を
していきたいです。